

わーど

第49号
2017. 10. 1

今年の夏も稲美町で14名の 留学生の笑顔の花が咲きました！



8月8日(火)	8月9日(水)	8月10日(木)	8月11日(金)	8月12日(土)	8月13日(日)
対面式 歓迎会	小学生交流 中学生交流	高校生交流 老人クラブ交流	ふれあい交流会	フリータイム	フリータイム
お別れ会					

トライやる・ウィーク

6月5日から5日間、稲美中学校、稲美北中学校から3名の生徒が稲美町国際交流協会の仕事体験に来てくれました。毎年恒例のJICA関西訪問では、実際にマダガスカルで活動されていた方のお話を聞いたり、普段口にすることがないウガンダ料理を頂きました。

今年はトライやる・ウィークのすぐ後に子ども向けのイベントがありましたので、実際にイベントで使うゲームのレクチャーを受けてもらったり、当日使う飾りなども作ってもらいました。

他には加古川在住のドイツ人女性や仕事で稲美町に来ているベトナム人女性から、自国の事や日本に来てからのことなど各国の違いなど興味深いお話も沢山聞きました。英語講師による英会話ミニレッスンもあり、国際色に富んだ一週間でした。

トライやる感想

- ・マダガスカルに行った方のお話も聞いて勉強になりました。ウガンダ料理は1つアフリカ感があるものもあったけど、それ以外はとても美味しかった。アフリカの料理は普段食べれないので良い経験になりました。
- ・ドイツの方の話を聞いて、すごくドイツに行きたくなりましたし、身近に感じる事が出来ました。
- ・JICAには外国の方のための泊まれる場所があることにびっくりしました。



外国ゲームで遊ぼう

6月10日(土)、いきがい創造センターにて「外国ゲームで遊ぼう」の会を開催しました。当日はトライやるウィークに来てくれた中学生のお姉さんもお手伝いに来てくれて、総勢26名も参加してくれました。初めは知らない子ばかりだったのですが、ゲームをしているうちにどんどん仲良くなりました。あちこちでウアー、キヤと声が聞こえてきました。最後は自分のお気に入りのドイツゲームを持って「はいチーズ」。



じんけんわくわくスクール

9月2日(土)、当協会は町教育委員会主催の「じんけんわくわくスクール」のイベントを担当しました。約80名の参加者は、マダガスカルの留学生リナさんとナリアンザさんから同国の紹介を受け、歌と動物の動きを取り入れたダンスによる子供達の遊びを体験、そしてクイズに挑戦。クイズでは全員が10問全問正解でビックリ。あつという間の1時間30分でした。



後半の事業予定

11月	神戸大学留学生とのティーパーティー
1月	ニューイヤーパーティー
2月	外国料理教室・絵画交流
3月	わーど50号発行 第2回ワイン講座

*イベントは事情により、変更することがあります。

会員募集

稲美町での国際交流をはかるため、稲美町国際交流協会の会員を募集します。多くの方に加入していただき、活気にあふれ、心とこころがふれあう協会にしたいと思いますので、ご賛同をお願いします。会員の皆様には、各種イベントのご案内、イベント参加費の割引などの特典があります。

【年会費】	個人	1口	1,000円
	家族	1口	2,000円(同居)
	団体、法人	1口	5,000円

※ご加入いただけます方は、お手数ですが協会事務局までお問い合わせください。

【わーどクイズの答え】3 アメリカでは多民族国家のため、公用語を法律上決めていないようです。

平成29年度 稲美町国際交流協会 団体・法人会員 (順不同)

- キング醸造(株)
- 植田住地(株)
- 兵庫南農業協同組合天満支店
- 上野鋼業(株)
- 榎本建築設計事務所
- 六甲バター(株)稲美工場
- (株)アシス
- 医療法人社団 奉志会
- 印南養鶏農業協同組合
- (株)稲美乳販
- イナミスポーツ
- 三美塗装(株)
- (株)マルオ洋品店
- 松田測量登記事務所
- (株)コカジ技研
- いなみマイマイ工房
- (株)モリ
- NOBBY FARM
- 稲美町老人クラブ連合会
- 天理教加古大教会
- 赤松機器工業(株)
- 台湾料理 順記
- インドパルダイニング ヴィレッジ
- 明光印刷(株)

今年度も引き続き、ご支援、ご協力賜りますよう、よろしく願い致します。

編集後記

今年は、役場の耐震工事中と言うことで、日程やイベントが例年と違い、スタッフも少なくバタバタでしたが、14名も留学生が来てくれて稲美で楽しい夏の思い出を作れた事と思います。ご協力いただいた全ての方に感謝致します。(K.T)

レイ(中国)

感動が続いている六日間

8月8日に、ふれあい交流「いなみ野の里」の迎えに来るバスに乗る時はとても緊張した。今回は小学校→中学校→高校→老人クラブというパターンで交流した。さまざまな伝統的なゲームは学生さんたちとおじいさん、おばあさんと体験した。例えば、けんだま。小学生たちの親切な指導のおかげで、けんだまは皿の上に受け止めることができた。中学校の交流といえば、そうめん、スイカはそのまま食べても美味しいが、流しそうめんとスイカ割りのゲームを通して、より美味しかった。その時の明るい先生たちと元気な学生たちに感謝している。そして、高校で華道や書道や琴も体験した。高校生とのコミュニケーションはたぶん一生忘れない。お別れの時も、全力で手を振っている学生たちの姿も感動した。最後は、老人クラブに行って非常にきれいな日本風な手作りプレゼントももらった。作るのはお疲れだろう。ちゃんとそれを持って中国に帰る。残りの3日間はホストファミリーと一緒に楽しく遊んでいた。おじいちゃんもおばあちゃんもやさしくて、おばあちゃんの手紙を読んだ時、2年前なくなった中国のおばあちゃんのことを思い出して、涙が出た。おばあちゃん、ありがとう。そして、いっぱい話をしている。一緒に遊んでいたおとうちゃん、おかあちゃんもやさしい。子供たちはかわいくて、歌や絵なども上手で服使していた。私は一人子でこの短い間で、2人の兄弟がいて、大変楽しかった。

六日間はあっというまに過ぎて、本当に帰りたくないほど楽しかった。その感動し続ける日々を、きっとみなさんにいろいろご迷惑もかけただろう。みなさんのやさしさは心から感謝している。いなみ町の夏、すばらしかった。



藤本ファミリー

すばらしい出会い

我が家にとってホームステイの受け入れは今回が初めてでした。そのため当初は食事や部屋、言葉等々、数々の心配事がありました。でも中国出身の玲さんはそんな不安を吹き飛ばしてくれました。

お互いに緊張していた初日、自分が興味を持っている日本の歴史や中国の事など積極的に話をしてくれました。2日目には小中学生との交流から帰宅後、食べ物のお話で盛り上がり疲れているにもかかわらず、中国のお母様からよく作ってもらったというかぼちゃ餅を作ってくれました。10歳と5歳の2人の娘に民俗衣装の漢服を着せてくれたり、絵本の読みあひっこや坊主めくりをして関わってくれました。さりげなく食器洗いや食事の支度を手伝ってくれたり、おじいちゃんやおばあちゃんにも心配りをしてくれるなどし、皆が玲さんを大好きになりました。

完璧な日本語を話さなくても、伝えたい気持ちやお互いに理解し合いたいという思いが自然に湧き起こっていました。娘達が玲さんのような素敵な女性になってくれるといいなあと思います。

そんなすばらしい出会いを与えて下さった全ての関係者の皆さんにお礼申し上げます。この6日間は本当に楽しかったです。ありがとうございました。

今井ファミリー

稲美町から心を開いて

初対面の日、私達は彼の好物：からあげを1.5箱持って会場に向かいました。彼は驚きながらも白い歯を見せて喜びながら食べてくれました。すると2日目の夜に私の友人がピン君に会いに来てくれて手土産は大盛からあげ5箱。私はピン君をからあげ嫌いにしてしまうかもと少し焦り、そんな所から我が家での生活が始まりました。

最初の夜に、驚いたことがありました。一週間の生活について計画を話し、「忙しくないか？疲れたら言うんだよ」と言う「郷にいれば郷に従えですから。全てOKです。」との返答が。全てを受け入れる良い覚悟で来ていることに感じました。またとても聡明で優しく人なつこい。初日、そして次の日では既に私達の家族でした。

彼との交流は、ご近所あいさつ回りから始まり、夜のランニングしたり、山に行き登山したり、買出しに行って手持ち花火が売ってあることに驚いたり(ベトナムでの手持ち花火購入は刑務所行きらしい)、龍野のおじいちゃん宅に親族が集まり、墓参り、初の手持ち花火、龍野城下町の散歩、稲美町に戻りご近所あいさつ回りで締めとなりました。息づく間もないような計画の中でしたが、日本の盆らしい生活を一緒に味わえたのではないのでしょうか。

ピン君がより打ち解けてきたのは4日目の買出しあたりからだったように感じました。信頼と思いやりを行動で返そうとしてくれる彼の行動がとても嬉しかったです。

最後のお別れ会の裏側で感動することが。お隣の大先輩がピン君に渡せるものは何かないと家をひっかき回し、今までとても大事に保管されていたことが伝わる百人一首とカルタを会場にまで届けて下さったのです。そして「感謝の心を忘れないで。日本の文化を渡します。ピン君が最後に龍野のお素麺を持ってあいさつに来てくれたその御礼です」と言葉頂きました。ピン君に本当に見せたかった日本の心を体験してもらえた気がしました。また、それは同時に私達の心にも強く印象に残り心温かくして頂きました。



ビン(ベトナム)

日本人のおもてなしの心、ありがとう

稲美町にくる前に、ずっと大阪の箕面市に住んでおり、あまり稲美町のことを知らなかった。しかし、稲美町に来て今井さんの家族に受け入れていただき、一員として生活を送ってみたら、「これまでで最も幸せな期間は稲美町の今井さんのご家族と一緒に暮らしていた六日間だ」と思うようになった。日本の様々な所を旅行したことがあったが、日本人の家に泊まらせてもらうのは今回は初めてだった。ここで体験したことは私にとって何でも初めてのことであった。花火、自転車で長距離を移動し自分自身に挑戦すること、お盆の生活習慣など、数えられないほど願ってもないことを楽しん過ごせた。稲美町の今井さんのご家族は本当に私の第二家族になりました。

時々関西弁で通じないこともあったが、いろいろお世話になり、細かいところまで教えていただき、ありがたいと思う。ここでの生活、出会って交流した人々、風景などはとても思い出になった。やっぱり今「一期一会」の意味をつくづく理解できるようになった。

稲美町の皆さん、今井さんのご家族、たつの市のゆきこさんのご家族、いろいろありがとうございました。[CAMO'N] (ベトナム語「ありがとうという意味」)

ナンシー(アメリカ)

美しい稲の町

稲美町の一週間はめちゃ楽しかったです。ふれあい交流で日本の文化体験して、ホストファミリーとのフリータイムで田舎の生活を体験してとてもよかったです。稲美町に着いた時、ホストファミリーは2列に並んで、大歓迎で迎えに来ました。とてもびっくりしましたが楽しかったです。私はノーベル賞を得たいでした。小学校では色々な伝統的なゲームが紹介されて、私が気に入ったのは将棋盤を使うゲームでした。家に帰ったら、ホストのお姉さんと一緒に将棋をしました。すごい真剣勝負になって、2時間もかかりました。結局、負けました(笑)。陣子貼りしたり、行者堂と地藏堂の御祭りをしたり、普通はしようと思わない、田舎でしかできない、すごく珍しいことをしました。

そして、この話し方が好きでちょっと播州弁を学びました。播州弁が一番いい方言と言われたけど、私が知っている方言の中で、播州が一番気に入っています。大阪弁より好きです。後、近所と話す時、いつも農業の話から始まって田舎だなと思います(笑)。短い間でしたが稲美町に来て本当によかったです。家も大きくて伝統的めっちゃ好きでした。私の家は大きいと思ってたけど、ここに来て全然違いました。最初に、すごい迷いました。稲美町はとてもよかったです。また日本に来たら、是非また来たいと思います。本当に色々ありがとうございました。日本での最後のイベントとして最高でした。



赤松ファミリー

初めてのホストファミリー

期待と不安で迎えたアメリカからの留学生ナンシーとは、会ってすぐに話ができて、娘が一人増えたようでした。ナンシーは明るく活発で好奇心旺盛な学生です。特に日本の伝統的行事にとっても興味があり、お墓参りや地藏堂、行者堂の御祭りまで一緒にしました。法被を着て交流会に出たり、おはぎを作ったり、陣子の張り替えもしました。ナンシーが来たことで、私たち家族は改めて日本のよさを再確認することができました。

ナンシーに「本当にいろんなことしたいのね」と言う、「時間がないから、今しかできない」と。限られた時間の中で出来る限りのことをしようとしていました。先日、無事に帰国の知らせがありました。ナンシーとの再会を楽しみにしながら、私たちも一日一日を大切にしたいと思っています。このような素晴らしい出会いを作ってください本当にありがとうございました。

中川ファミリー

☆一緒に過ごした6日間☆

我が家にインドネシアからのスヴィちゃんを迎えました。ホームステイに対して不安もなく、これまで日本でいろいろ経験している話を聞いてると、度胸がある子だなと思いました。子ども達はすぐに大好きになり、折り紙をしたり、絵本を読んでもらったり沢山遊んでもらってました。日本語も上手で普通に会話出来ました。姫路城へ一緒に行くと美しいと感じました。日本は綺麗で興味を持って日本語の勉強をはじめたいです。暑い国で育ったのに、暑いのは苦手冬の方が好きと言っていました。他にもBBQをしたり、稲美町の花火を見て楽しい時間を過ごしました。

私達もインドネシアの生活や食べ物の事を聞かせてもらい、興味を持ちました。ナシゴレンやミーゴレンがあるので機会があれば皆さんも食べてみて下さい。スヴィちゃんは日本で就職が決まっているのでこれから日本での生活、仕事頑張ってもらいたいです。稲美町に来てくれて、ありがとう！



スヴィ(インドネシア)

楽しかったです

私はホームステイをしたことはありませんが、今回の稲美町のホームステイプログラムに参加してとても楽しかったです。受け入れ家族に3人の子供がいて、毎日が賑やかで、奥さんと旦那さんも大変親切です。本当にお世話になりました。私には弟や妹はいないので、子供達と仲よくできるのが不安でした。でも3人ともなじみやすく、ほんの少しの間お姉ちゃんになって嬉しかったです。また、小学生、中学生、高校生、老人クラブとの交流で、今まで経験したことないことをすることができて、感動しました。流しそうめんやスイカ割りなど普段できないことや、日本の昔遊びや生け花などのような日本独特の芸術を体験するチャンスはあまりないと思います。だから、このプログラムに参加して、とてもよかったです。30年近く続いているプログラムですが、これからも長く続けて欲しいです。稲美町の活性化にも、外国人留学生にも刺激を与えることができると思います。

リサ(香港)

稲美の五日

初めて日本のいなかで生活しました。日本のいなかはいつも広いたんぼやすてきな景色が見えます。特に稲美町は池が多いです。本当にきれいな町だと思います。

日本人との生活も初めてのことで。小学生とゲームし、中学生と高校生と交流し、老人と話し合っ、いろんな日本の文化や生活のを知るようになりました。

花火大会のとき、ひさしぶりに浴衣を着ました。人が多かったですが、花火がきれいでした。屋台の食べ物(やきそば、からあげなど)もおいしかったです。

しかし、このホームステイの間に、もっとホームステイの家族を話したほうがいいと思います。



植田ファミリー

思い出に残るホームステイ

今回でホームステイ事業に参加したのは4回目です。そして今年来て下さったのは香港からの留学生リサさんでした。フリータイムの2日間、11日は西脇へ行き、昼食に大橋ラーメンを食べ、そして日本のへそ公園、道の駅へ行き、家に帰ってからは親せきの人たちといっしょにバーベキューパーティーをしました。

12日は、午前中はゆっくりして、午後からおにぎりをリサさんといっしょに作って加古大池の花火大会に行きました。

今回は6日間で短かったですが、リサさんは日本の伝統と文化に関心があり、たくさん質問されましたが、全部うまく説明出来なかったです。しかし、おばあちゃんのおうちに泊まり、家族皆と共に楽しくリサさんと交流出来たのですごく良かったです。

国際交流協会のスタッフの皆さん、リサさんとのステキな出会いをありがとうございました。

竹元ファミリー

アレックスとの楽しい6日間

今年の夏、我が家にブラジルからの留学生アレックスが来てくれました。驚くほど流暢に日本語を話せるアレックスと私たち家族が仲良くなるのに、時間はかかりませんでした。息子とゲームで盛り上がり、漫画を読んで一緒に笑っている様子を見ていたら、小学生の息子がもう一人増えたように感じました。娘のぬいぐるみ遊びにも付き合ってくれて、盆踊りの練習にも一緒に行ってくれました。

水族館では子どもたちをおんぶしてペンギンを見せてくれたりして、子ども達をととても可愛がってくれました。疲れているはずなのに夜遅くまで私たち夫婦と色々な話をしてくれました。寝る時以外は自分の部屋に入らず、私たちと過ごす時間を大切にしてくれたのが、とても嬉しかったです。

ブラジル料理のお店に行ってアレックスおすすめの料理を食べたり、ポルトガル語を教わってもらったり、サンバを息子と踊ってくれたりして私たちもブラジルの事を少し知ることができました。優しく明るく頼もしいお兄ちゃんできて、私たち家族にとって忘れられない夏になりました。



アレックス(ブラジル)

ホームステイ

6日間はこんなに早く終わるとは思わなかった。毎日楽し過ぎて13日の朝までこの感想文を書くこととか、「故郷」という歌の練習をする暇が全くなかった。今は、竹元さんの子供が起きていないうちに、この6日間の白熱を報告することにしたい。おかげさまで子供とものごく仲良くなって、一緒にいると一緒にならずと遊びたくなるからだ。

この触れ合い交流会に参加する前に、日本の小学校、中学校および高等学校に行ったことは一回しかなかった。日本人の学生と日本の伝統的な遊びをしたり、話したりすることで、どんな生活を送っているかを実習することができた。僕の過去のことも何回もなつかしく頭に思い浮かべていた。

それから、竹元さんのもとで生活することで、日本人の生活を様々な角度から体験することもできた。もともとこのプログラムに参加不可となっていた僕は、結局来られるようになって立派な思い出ができ、本当に運がよかったと思う。

触れ合い交流会のスタッフの方々、そして日本の家庭の生活を体験させてくださったホストファミリーの方に、出会うのに感謝の気持ちで溢れている。帰るのが悔しいが、僕にとって大切となったこの稲美の里に、またいつか戻りたい。ありがとうございました。

ツェソ(モンゴル)

いつでも忘れない思い出

日本に来て4ヶ月間しかたななかったこの時、新しい生活、一人暮らしや勉強のことでちょっと疲れていて、“ちょっと大変ですね”と書いていました。しかし、この“いなみ野の里”ホームステイ事業に参加して、この思考が全然反対に変化されました。

まず、外国に家族や友達から離れている時にこんなにあたたかい心で世話をしたホストファミリーに心から感謝申し上げます。この6日間、日本のことを教えていただきました。その上、お母さんが作ってくれためっちゃ美味しい料理ばかりでお腹がいっぱいになっていて、太ってきたかもしれません(笑)。

小学校、中学校、高校と老人クラブと一緒にやった活動や遊びはとても楽しかった。将棋と書道をお習いしている。いままでも日本に過ごした時間が一番楽しい時間でした。日本の学生達、皆本当に多才だと思いました。

何度も旅行に行っても経験できないことを経験して嬉しい。日本で過ごしている初めての初体験よかったですね。また、ぜひここに戻って来ます。忙しくていつでも忘れない思い出になりました。



北川ファミリー

モンゴルを知る

2回目のホストファミリーをする事になりました。モンゴルからのツェソは18歳。我が家に2人目の娘が来た感じです。モンゴルの事を調べると、人口密度が2人/km。大草原が目に見えます。

日本の文化を知ってもらおうと、我が家の料理を食べてもらいました。酢の効いたサラダや煮物に、グーのサインを出します。嬉しそう顔に、北川家も明るくなりました。言葉はあまり通じなくても、分かり合え事もわかりました。改めて、長く取り組みを続けてこられた国際交流協会に感謝です。

チェソは四月から日本に来て、自炊は塩を中心に味付けし、その他の調味料はどのような物か分からないので、購入を控えていました。酢やワサビ、タレをはじめ様々な調味料を教えてあげることができ、これらは日本の生活を楽しむ事に寄与できたのではないかと思います。私もモンゴルの乳製品を中心とした食文化を教えてもらい、いつか大草原のテントでの体験をしたいと思いました。国際交流というのは、本当におもしろいです。

中谷ファミリー

リケジョのTananan

私達の稲美町ホームステイ・プログラムへの参加は、今年で7回目。今年は、タイの女の子、バンコク出身の19才。この4月から1年間、大阪大学で日本語を勉強した後、情報工学を勉強するために日本国内の大学に進学する予定です。ただ、9月と12月に日本語を含めた大変重要な試験があり、その成績によって進学先が決まる予定です。そのため、毎日8時間以上も勉強を続けているそうです。そうそう、興味(趣味)は“天文学”(笑)

当初は声が小さく、言葉数も少なく、相当緊張していたようです。でも、4月に来日して、日本語の聞き取りや自分が話せる日本語の単語も少ない訳です。だから仕方ないですね。

さらに、Tanananは「人前で話すのは、大の苦手」という事が分かりました。「ええへ、交流パーティーで大勢の前で話す機会があるよ!」でも、心配していたのは私達だけでした。Tanananは、持ち前の集中力で、当日は、堂々の話ぶりでした(笑)

彼女は、Outdoorではなく、Indoorが好きだそうです。だから、どこへも出かけず、国の家族の事、勉強の事、そのほか色々な事を日本語とタイ語を交えて話をしました。そんな中、着物や浴衣の話もあり、“日本のキモノ”には、興味津々!! 真夏ではあるけれど、妻が友人から振袖を借りてきて着付け、彼女にとって生まれて初めての化粧もしました。大変身をしましたよ!!

そして、最終日のお別れ会も無事に終え、会場を後にしようとした時、Tanananは、とってもリラックスしながらも、目うつすらと涙をためていたのを私は見逃しませんでした。Tananan 疲れたと思うけど面白かった? これからも、パパママと会いましょう!



チー(タイ)

あたたかい期間

私は日本へ来てから4か月ぐらいたちました。しかし、私は日本語がまだ上手ではなくて、日本の文化もあまりわかりません。最初、私はとても心配でしたが、ホストやスタッフなどはとても親切なので、一日中楽しかったです。いなみで皆さんは私にいろいろな日本文化を教えてくださいました。例えば、日本のむかしのゲームや、すいかわりやそうめんなどが。小学校と中学校と高校へ行くのは楽しくて、なつかしかったです。学生たちはとても元気で、話しやすかったです。老人クラブでいろいろ話したり、せんすに絵を描いたりしました。とても楽しくて、おみやげもとてもきれいでした。それに、日本の文化だけでなく、いろいろな国のことも習わせてもらいました。たくさんめずらしいことを聞きました。

ホストといっしょにいろいろ話しました。私は日本語が下手でも、「パパ」と「ママ」は私とゆっくり話して、私の話を聞きました。それに、いっしょにそとでやきにくを食べたり、花火を見たりしました。その上、ホストのうちでママは私に着物を着せてくれました。これは私のはじめて着物を着るのです。とてもうれしかったです。

この6日は暑かったのですが、心はあたたかい気持ちで過ごすことができました。私は皆さんに「あたたかいかなげい、ありがとうございます」と言いたいです。私にとって、ことしの夏休みは一番楽しかったです。

リド(インドネシア)

ホームステイ

大阪大学に留学している間、大学生たちと交流する機会がなかなかないので、稲美町のホームステイプログラムに参加して、多くの人と交流できてよかったと思います。それだけではなく、このホームステイプログラムでは日本人の家族の一員として生活を過ごすことができましたから、本当に良い経験になりました。そして、たくさん大切な出会いもありました。ホームステイの家族はもちろん、今まで知らなかった留学生とも仲良くできました。とても素晴らしいことです。稲美町の小・中・高校生とも交流ができて、本当に楽しかったです。そして、稲美町の花火大会は最高です。人がそんなに多くないので、花火をゆっくり見ることができました。

私はずっと前から、ホームステイしたかったので、このプログラムに参加できて本当に良かったと思います。新しい家族も出来たし、色々な人に出会ったし、日本人の家族一人として生活するのも経験できました。人生にとってもいい思い出になります。



敦見ファミリー

ホストファミリー

我が家に来てくれたのはインドネシア出身のリド君です。彼の日本留学期間は1年間で、今年の9月に地元のスマトラに戻り、大学4回生に進級します。日本語を高校1年生から学んでいるため、コミュニケーション能力は高かったです。一見物静かな感じがするリド君ですが、私達家族の会話をきちんと理解していましたし、要所所で笑ってくれたので、そんなときは嬉しくなりました。インドネシアはバドミントンが盛んな国で、もちろんリド君も上手です。我が家の息子達二人にも優しく教えてくれました。

フリータイムでは、家族全員で海釣りをして、アジ、サバを沢山釣ったときの興奮混じりの笑顔。浴衣を着て花火大会を見るのが夢で、念願叶った時の満面の笑み。そんなリド君を見ていると私達も微笑ましくなりました。又、彼は、母国の料理を振る舞ってくれました。「ピリ辛焼きそば」、「ココナッツミルクの牛肉カレー」、「アボカドジュース」、どれも日本と違って新鮮でした。リド君からインドネシアと日本の文化の違いを教えてもらい、とても勉強になりました。

家族の一員として、日一日と慣れていった頃、とうとうお別れの日がやってきました。我が家の息子達は、リド君が大好きです。寂しさが募りました。けれども、またきつと会えますし、彼と出逢った縁を大切にしてくださいと思います。リド君、ありがとう!!

宮下ファミリー

初めてのホストファミリー体験

我が家にはアゼルバイジャンからの留学生ウリヤさんが来てくれました。初めはアゼルバイジャンがどこにあるのかも知りませんが、緯度は日本の東北地方とほぼ同じで、ウリヤさんによると気候も日本と良く似ているようで、とても親近感を覚えました。

会うまでは会話がうまく通じるか少し不安でしたが、ウリヤさんは日本に来てまだ4ヶ月なのに日本語がとても上手で、何の不自由もありませんでした。その上、アゼルバイジャン語はもちろんですが、英語やロシア語も得意で、簡単なアゼルバイジャン語を教えてもらったり、日本語でしりとりをしているときも英語での言い方を教えてもらったりと、子どもたちにとっても良い経験になったと思います。

また、ウリヤさんは子どもたちと年が近いこともあり、色々話をしたりお手玉や折り紙をしたり、浴衣を着て花火を見に行ったりと6日間と言う短い期間でしたが楽しい日々を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。



ウリヤ(アゼルバイジャン)

ホームステイ

私は日本に来てから四か月ぐらいたちました。この長い間に日本文化についてあまり覚えませんでした。日本人の家族と過ごした6日と言う短い間、日本文化と日本人の普通の生活についてたくさんお話をもらいました。このほか、ホームステイの行事のおかげで日本の学校制度について知らない知識を習いました。小学生から日本の子供たちのする伝統的なゲームについて習って、中学生から日本料理といなみ野の中学校について習って、高校生から日本の伝統的な楽器と日本文化の大切な様相について教えてもらいました。老人クラブのみなさんと話して楽しかったです。

最後の二日家族とあったフリータイムを楽しみました。お母さんは私たちに美味しい日本料理を作った、お兄さんの和太(かずひろ)は私に折り紙をおしえてくれた。妹の友里(ゆり)と日本で人気がある「あにめ」を見ました。家族といっしょに神戸へ行って、ぶどうがりに行って花火を見に行きました。花火を見に行く時、初めてゆかたを着ました。この6日という間、宮下の家族は私の自分の家族になりました。日本に来てからとときどきホームシックになったけれど、この6日自分の家だと気持ちがありました。この6日は夏休みの一番思い出深い時になりました。

メキ(マカオ)

一期一会の縁

人生は無数の「一期一会」である。誰かと出会ったり、別れたりするたびに成長していく。稲美町のみなさんとの出会いもその通りである。ここで様々な人とふれあい、色々なことを体験し、ホームステイの家族の暖かさが感じられ、私たちは貴重な体験を得た。日本の昔遊び、伝統的な文化、家族の在り方など、日本の事情をより一層知ることができた。もし、稲美町のみなさんがこの交流会を通して、異文化について興味を持つようになれば、大変嬉しいと思う。

たったの6日間しかないが、小中学校、高校、老人クラブと交流ができて本当にありがたいと思う。ホームステイの家族とすごしたこの6日間はたくさん思い出が出来た。別れは切ないが、ここで学んだこと、体験したことを大切にしていきたい。将来日本で就職したい私にとっては非常に重要な経験で、今後も社会で活用していけると思う。最後に、このふれあい交流に参加したボランティアのみなさん、留学生を受け入れた家族に感謝の気持ちを伝えたいです。本当にありがとうございました。もし機会があればまたどこかでお会いしましょう。



柴田ファミリー

初ホストファミリー

我が家に来たマカオ出身のメキさんは、外国人ということをおぼろげに覚えていたけれど、日本語が上手で、小学生の息子たちとたくさん遊んでくれました。

例えば公園でバスケや野球、家でカルタや坊主めくりをしました。メキさんは、日本でしかできないことを積極的に体験している様子でした。フリータイムには息子たちの剣道の練習会へ行き、初めて見たので写真を撮らせてくれました。それから一緒に赤ちゃんのお宮参りで天満神社へ行ったり、家でたこ焼きを焼いたりボーリングをしたり、花火を見に行ったり、我が家にとっても本当に楽しい思い出となりました。

今回初めてホストファミリーを経験して、子供たちは色々な国があること、そして国や文化が違って一緒に楽しんだり、生活したりすることができることを実感し、お金では買えない貴重な体験をさせてもらったなあと感じています。私もメキさんとのお話や交流会などを通して、異国の文化に刺激を受けました。また是非ホストファミリーをしたいと思っています。

小山ファミリー

陳彦玟さん(リンちゃん)との6日間

「日本語はまだまだで文法や言い方を間違っ失礼があるかも」と言っていました。十分にコミュニケーションがとれます。いつも気遣いのある誠実な態度で接してくれ、たいへん好感がもてました。台湾のTVで日本のドラマやアニメを見て日本語を学んだと言うだけあってアニメやドラマをよく知っています。絵を描くのも上手で日本の名所に行って描いたたくさんの絵を見せてくれました。フリータイムの日には赤穂の旧坂越浦会所と明石の祖母宅、加古大池の花火大会に行きました。浴衣は人数分あるのですが作り帯が2つしかなく、半幅帯は結んだことがないし...と悩んでいたなら『私結べます。大阪大学で習いました』とリンちゃんが結んでくれ、浴衣姿で花火を見ることができました。リンちゃんは淀川の花火にも行ったことがあるそうですが、加古大池の花火はゆったりとして近くで見られてキレイで、とても良いと喜んでいました。別れる時にリンちゃんから手作りのカードをもらいました。カードにはこの6日間で最高に楽しく幸せだったことと私たちがへの感謝の言葉が、そして裏面には我が家のリビングが描かれていました。我が家の宝物がひとつ増えました。



リン(台湾)

ホームステイ

今回は「いなみ野の里」というイベントに参加できて、本当に大変楽しかったです!当初は日本人と一緒に暮らすことについて、非常に緊張し、不安でした。しかし、稲美町の皆様はいつも親切で私たちと話してくれたおかげで、すべての心配事は一瞬で消えてしまった。

小学生からおじいさん、おばあさんまで、稲美町の住民は私に優しく、かわいい印象を与えた。初めて会った人でも、すぐ外国人に声をかけることは私にとって、すごく感動した。さらに、私たちの国の紹介を聞いていただき、誠にありがとうございました。本当に行きたくて良かった。

触れ合い交流会のスタッフの方々、そして日本の家庭の生活を体験させてくださったホストファミリーの方に、会おうの感謝の気持ちが溢れている。帰るのが悔しいが、私にとって大切となったこの稲美の里に、またいつか戻りたい。ありがとうございました。

小学生交流

(天満東小学校)

6年生の児童たちと共に、日本の伝統的な遊び、お手玉・けん玉・百人一首・将棋・皿回し・羽子板など体験しました。初めてのなにに皿回しがとても上手な留学生もいました。

★M.Rさん

ぼくは今日留学生に折り紙を教えてみんな楽しんでくれたので良かったです。いろいろな国の説明も聞いて国に行きたいと思いました。またいっしょに遊みたいです。



★K.Tさん

私は交流会をして留学生の人としゃべるのが楽しかったです。皿回しをおしている時に、分からない所は聞いてくれたりしてうれしかったです。私は人見知りですが、今日はたくさんしゃべることができて良かったです。また、こんな交流会があればいいなと思いました。



★K.Rさん

はやくひやくにんいっしょがおわったとき、すこし国のことをはなしたりしてすごしたのしかったです。国のばしょによっておんがぜんぜんちがうことがわかりました。おはなをきいてわたしもいってみたいと思いました。

高校生交流

(東播磨高等学校)

高校では華道体験・書道体験をしました。書道では留学生の好きな文字をうちわに書きました。個性豊かな文字を描いていましたよ。邦楽部による琴の体験や年も近いこともあり、おしゃべりも楽しい時間でした。

★文芸部(2年)

交流会当日までは、上手く話ができるのか不安でしたが、会話をしていくうちに不安もなくなってとても良い時間が過ごせました。文芸部に入って先生にこの話を聞かなければ絶対縁のない機会だったのでうれしかったです。またこのような会があれば参加してみたいなと思いました。



★華道部(2年)

台湾と中国の留学生の人とお話して台湾と中国との日本の違いや台湾と中国のことを聞いたりしてとても楽しかったです!!! 台湾の制服をみせてもらったり、日本の文化の好きな所や住んでいた地域のことなども色々きいてとてもわくわくしたり勉強になりました。

★書道(2年)

書道ではうちわに字を書いて、みなさんはそれぞれ好きな漢字や日本語の言葉があつてすごいなと思ったし、日本についてよく知ってくれているんだとうれしくなりました。この交流で外国の方と関わるのは楽しい、いい経験になりました。

ふれあい交流会

今年もホストファミリーも含めて総勢115名もの賑やかな交流会となりました。恒例の留学生の国のお話、そして自国のクイズ会が行われました。クイズのひとつはわーどクイズにもなっています。さて、答えは何でしょう?

(参加者感想)

★60代

毎年、ふれあい交流「いなみ野の里」の交流会に参加させて頂きますが、本日までたくさんの若い方の参加が多く、留学生の方の日本語や日本に浸透している姿がとても違和感なく感じることができ、隣の香港の方とても話がはずみ楽しかったです。

★10歳以下・30代・60代

稲美町で外国の方とふれあえる機会があつて、とても嬉しかったです。ホストファミリーもずっと考えているので、近いうちに受け入れられたらと思います。



★10代

たくさんの外国の方と交流することで、いろいろなことを学ぶことができたと思う。前回も来させていただいたので、いろいろな国のことも知ることができたと思う。

★40代

すごく楽しい時間を過ごせました。いろいろな国の良いところの話がきけてよかったです。旅に出たくなりました。

中学生交流

(稲美中学校)

生徒会をはじめとする皆さんが企画してくれた「そうめん流し・すいか割り」はとてもにぎやかで好評でした。女子バレーボール部の皆さんも突然の訪問にも関わらず、笑顔と元気をくれました。

★井上麻比留さん(3年)

会う前、とてもドキドキしていたけど、実際に会ってみて話をしたら、とても笑顔で話してくれました。日本の漢字は私でもまだまだ分からないので、漢字を書いていたときはとてもすごいと感心しました。一緒に流しうめんを楽しみながら食べたり、すいかも誘導しながらもらってのもすごくむずかしかったけど、みんなで種を飛ばしあったり、写真をとったりしてとても思い出に残ることができました。これでもうおわかれかもしれないけど、また会えたらいいと思います。



★福嶋純子さん(3年)

私は今日の交流会で、流しそうめんや自己紹介のゲームやすいか割りなどを通して、留学生の人たちとたくさん交流できて楽しかったし、みなさんが笑って楽しそうにして下さっていたので、とてもうれしかったです。自己紹介では将来の夢が世界に立つような人もいたので、すごく刺激をうけました。これからも頑張りたいです。



★阿部真裕子さん(3年)

交流会では、色々な国の色々な方とかわることができました。自分から話しに行くのとたくさんお話をしてくださって、すごうれしかったですし、色々な人と交流するのは楽しいなと感じることができました。あまり体験できないことだったので、これからの自分自身に役立てたらなと思いました。本当に楽しかったです!!

老人クラブ交流

奥谷会長の挨拶後、老人クラブの皆様のご指導のもと各テーブルに分かれて扇子に絵を描きました。留学生は皆さん日本語が分かるので、会話も弾みました。



★野田光義さん

毎年、留学生とふれあい交流会を開催しているが、4ヶ月位で日本語が上手なことに感心される。他の国の話を少し聞け楽しい一日を過ごす事が出来た。

★本岡恵さん

海外旅行も経験のない私ですが、学生さんの素直な方とお話しでき、楽しく一時を過ごせた事嬉しく感じます。



★前田環さん

私も20年前にホストファミリーの経験があります。楽しかった1週間を思い出しました。もう少し若ければ又、受け入れたのですが、少々年を重ねましたので残念です。

お別れ会



わーどクイズ

アメリカの公用語は何語でしょうか?

1. 英語
2. 英語とスペイン語
3. なし

大村ファミリー

ホームステイ

八年ぶり二回目となる今回、我が家にオランダからアイシャちゃんがきてくれました。

日本語での会話や読み書きもさることながら玄関での靴の脱ぎ方は上がってから膝をついて揃えたり、ダイニングの椅子も必ず両手で持ってなおしてくれました。ちょっとした仕事なども日本人よりも日本人らしく思いました。

初日は緊張されているところもありましたが、娘が五ヶ月前にホームステイをさせてもらったデンハーグという都市に彼女が住んでいたこともあり、共通の話題や興味があることが同じで毎晩遅くまで沢山お話をしました。その中でもオランダ語と日本語との関係はとても面白く、インドネシア語とも意味は違えども同じ発音の言葉が色々ありました。娘のオランダ語の歌を聞いてもらったり、オランダ語やお友達に送る英語のメールを教えてもらったり。日本語で「なぜぞ」や「クイズ」を出してくれたり、人生ゲームや四目並べをして大笑いしたり、近所をアイスを食べながら散歩したり。一緒にいるのが当たり前で本当の家族のようになっていました。

彼女が帰った後の部屋や減った洗濯物をみるととても寂しく感じますが、帰国して夢に向かって頑張るアイシャちゃんを応援して行きたいです。いつでも帰っておいでね。そして二年後にオランダで会えるように私たちが頑張るわ。

この度は、受け入れる私達にとって負担にならない様に考えられたプログラムやお気遣いを頂きましてありがとうございました。

留学生達の姿勢に子供たちも大いに刺激を頂き、そして新しい出会いを頂いたことに感謝致します。

アイシャ(オランダ)

稲美町、ありがとう

稲美町。美味しい新鮮な食べ物。ほかの日本で見られない美しい風景。それは、行く前に字を見て予想しましたが、実際にそうでした。

最初からスタッフに温かく歓迎されました。学生たちの熱情でとても元気をもらいました。老人クラブのみなさんは、絵が下手の私とゆっくり、やさしく触れてくれました。

ホストファミリーのことはもっとも感動しました。ホームステイの1つのルールはホストファミリーを自分の家族として受け入れることでしたので、知らない相手にどのように失礼にならないようにしたほうがいいか、と来る前に少し悩んでいました。ところが、会った最初からホストファミリーが私を家族の1人として受け入れてくれました。稲美町、特にホストファミリーのおもてなしを実感できました。

稲美町のみなさんのおかげで、日本文化への関心と理解を深め、この唯一の機会をいただき心より感謝申し上げます。稲美町。字通りに。いつかまた会います。



サム(ベトナム)

あっという間の6日間

あっという間に、今日はいなみ町ホームステイプログラムの最後の日になりました。いよいよエンディングとなってきました。今、心の中につらいというか苦しいというか、別れの悲しさがいつの間にか溢れています。いなみ町に来てから、いろいろ体験させていただきありがとうございました。

いなみ町の小学校、中学校と高校でいろんな日本の伝統的な文化の体験もできてすごく楽しかったです。そして、老人クラブの方々とお話して案外と嬉しくて貴重なお時間でした。

次の2日間のフリータイムはホストファミリーの皆さんと一緒にすごした時間を過ごしました。まずは博物館に行ってヒモムスビを作ったり、古人の服を着たりして、昔のことをとても勉強になりました。そして実家にいきました。翌日は川で泳いだり、昔のお家をうかがったりして、楽しかったです。最後は皆といなみ町の花火大会を見て、花火も遊びました。

日本での留学はもうすぐおわりに近いです。その一年間、たくさんの思い出も作りました。悲しいのも、嬉しいものもあるが、一番かけがえのない思い出はこの充実して楽しいいなみ町にいた6日間です。



山路ファミリー

初めてホームステイを受け入れて

今回初めてホームステイプログラムに参加しました。我が家に来てくれたのはベトナムからきたサムくんです。

サムくんにはせっかくなので、日本のよそぎの姿ではなく、かざらない普段の生活を感ぜてもらうことを心がけました。生活も普段とかわらず、フリータイムには、日本の田舎の風景を見に行きました。

外国語ができない子供たちにとって、ベトナムでの生活や日本との違いを普段の生活のゆったりとした時間の中、サムくん日本語でたっぷり話せたことは、かけがえのない経験になったと思います。

異国の地、日本でしっかりした目標を持って、一生懸命頑張っているサムくんやその他留学生の皆さんを子供たちに見せたことは本当に良かったです。

また、サムくんはものすごく優しく、夜には長男の話を聞いてくれ、川に遊びに行ったときは、ずっと次男と一緒に遊んでくれました。

二人の息子にとっては、お兄さんができたように感じたかもしれない。

留学生の皆さんにも受け入れる家族にも楽しい思い出ができて、お互いの国についても理解が深められる本当に良いプログラムだと思います。

今回は参加させていただき非常に感謝しております。ありがとうございました。

対面式・歓迎会

今年も稲美町に大阪大学から14名の留学生たちがやってきました。初日はこれから6日間一緒に暮らすホストファミリーとの対面式。そして皆さんを歓迎する会がいしがいい創造センターのホールで開催されました。古谷町長による歓迎の挨拶から始まり、留学生の皆さん、ホストファミリーの皆さんの挨拶がありました。お互い初めて対面する家族にドキドキしました。

